

[ 認知症対応型共同生活介護用 ]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 4月 26日

【評価実施概要】

事業所番号	0792530016		
法人名	株式会社福祉介護計画		
事業所名	グループホーム 猪苗代		
所在地	福島県耶麻郡猪苗代町大字蚕養字沼尻山甲2855番地 (電話)0242-64-3270		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.4.15	評価確定日	H20.5.29

【情報提供票より】(20年 3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19年 6月 1日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	9人	常勤 9人, 非常勤	人, 常勤換算8.2人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	2階建ての	1~2階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200円		

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	17名	男性	3名	女性	14名
要介護1	7名	要介護2	3名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	1名	要支援2			
年齢	平均 84.1歳	最低	74歳	最高	97歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	矢吹医院、小川医院、長谷川歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

温泉地の近くにある自然に囲まれたペンションを増改築したホームは、町ではじめての地域密着型サービス事業所として「なじみの地域で」「いつまでもその人らしく」という理念のもと、地域の人との交流を行っている。利用者や職員に笑顔と会話がが多く、表情は明るく生き生きしている。開設から10ヶ月という短い期間にもかかわらず運営体制が確立されており、また職員のレベルアップのため、さまざまな研修への参加を推進している。日常の中での何気ない言葉も聞き逃さないようにするなど、利用者の思いに寄り添ったケアを心がけており、今後の質の向上が期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	初回評価のためなし。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は全職員に自己評価を項目ごとに説明し、職員が記入できる項目は記入してもらい全職員で取り組んだ。文章化されたことで、理解しやすくなり、振り返りの機会にもなった。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	グループホームの体制が整備されたのが、平成20年3月頃だったため、運営推進会議の開催準備を行っている。早期に開催できるよう、関係機関と協議していく予定である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	面会等で家族が訪れた際、意見、要望、気づきなど何でも伝えてもらうようお願いしている。また、以前の担当者や役場からの情報把握に努め、その都度全職員で話し合い、運営に反映している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入して地域の行事や掃除に参加したり、保育園を訪問し園児との交流や近所の人とお茶のみをするなど、地域へ積極的に働きかけ、関係づくりに努めている。

## 2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの役割を職員に対し説明をするとともに、法人理念の理解度、理念の必要性についての全職員に対しアンケートを実施した。それらをもとに職員で話し合い、「なじみの地域で」「その人らしく」という理念を作りあげた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を掲示し、毎朝全職員で理念を唱和するとともに、理念をカードに明記して携帯するなど理念の共有、意識づけに努めている。		職員各自で、日々の業務を振り返っているが、日々の利用者との関わりが理念に添ったものとなっているか職員全員で定期的に振り返る場を持ってほしい。
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入して、親睦会やお祭り、定期的な掃除には必ず参加している。また、保育園児や近所の人との交流もあり、地域の一員として生活している。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者が自己評価の項目ごとに説明し、それぞれの職員が記入できる項目は、自由に記入してもらい、管理者がひとつにまとめ上げた。文章化されたことで、理解しやすくなり振り返りの機会にもなった。		まとめ上げた自己評価は職員全員に渡してあるが、話し合いは行われていないので、自己評価全体についての話し合いをしてほしい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>グループホームの体制が整備されたのが平成20年3月頃なので、これから運営推進会議の開催に向けて関係機関と協議していく。</p>		<p>地域との連携、交流を進めていくためにも重要なので、なるべく早い時期での開催を望みます。</p>
6	9				
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、金銭管理や受診記録を含めた健康状態、生活の様子などを写真入りで作成して家族等へ郵送している。さらに、利用者との交流のある親族やかかりつけ医等にも、写真入りでそれぞれの手紙を添えて渡しているため、利用者の状況を具体的に把握できる。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族が面会等で訪れた機会に意見や要望、苦情を出してもらえるように声かけをしている。また、家族は直接言いにくいこともあるので、以前の担当していたケアマネージャーや役場からの情報把握に努めている。それらを職員全員で話し合い、運営に反映している。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>2つのユニットの職員が行き来しており、日常業務での馴染みの関係を重要視している。利用者とは日々声かけを行うようにし意識して関わりを持つように心がけている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症研修や管理者、リーダー研修などに全職員が、10ヶ月の間に120日の外部研修に参加している。また、今年度は70日の外部研修を予定しており、職員も意欲的に希望する研修に参加している。研修後はスタッフ会議で報告したり、資料を回覧して職員のレベルアップにつながる育成に取り組んでいる。		さらに職員のレベルにあった研修を実施するために、研修計画を立案し、社内研修についても外部研修同様に積極的な取り組みを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県段階や会津方部のグループホーム連絡協議会の研修に参加して同業者と交流している。また、猪苗代町介護支援ネットワーク会議に加入し、地元の関係機関やサービス事業所との連携を図り質の向上に取り組んでいる。		
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員の年齢層が10~60代と幅広いので、状況に応じた関係づくりができる。特に食事やおやつのは、職員と一緒にテーブルを囲み、食べ終わってもそのまま利用者とは会話する団樂の時間を大切に、本人の思いを共有、理解するよう努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>1.一人ひとりの把握</b>					
14	33	思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の生活の中での会話や利用者同士の会話から、一人ひとりの思いや希望などを本人のそのままの言葉で記録したり、表情などからも思いや意向などの把握に努めている。また、認知症介護研究・研修東京センター方式を活用し、ケア職員間で情報の共有や介護計画の作成に活かしている。		
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居後1ヶ月は本人、家族、関係機関の意見を聞き、暫定で介護計画を作成し、本人の状態把握に努めている。1ヵ月後には、家族の意向などを聞き、職員で話し合いを行い、本計画を作成している。また、必要に応じ主治医や入居前の担当ケアマネジャーとの話し合いも行い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は定期的に見直している。さらに、月1回のケース会議でも全利用者について、職員からの意見を出してもらいながら話し合いを行っている。また、状態変化時や必要に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。		
<b>3.多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)</b>					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>基本的には主治医を変えない方針で、職員が同行受診し、利用者の状態を適切に説明している。検査や病状説明時は家族も同行している。受診結果は、家族の訪問時や毎月定期的に家族へ報告している。また、月1回本人の写真入りの手紙を主治医に送付し、関係作りに配慮している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>家族は日頃のケアに対して信頼を持っており、看取りを希望されている利用者はいる。職員も看取りの必要性を感じているが、終末期についての職員間や家族との話し合いはしていないため、方針の共有化までに至っていない。</p>		<p>在宅医療への理解ある協力医と話し合い、重度化や終末期の対応方針を定め、職員全体での意思統一、家族との話し合いなどをして関係者で方針を共有するようにしてほしい。</p>
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1) 一人ひとりの尊重</b>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>掃除等で居室に入室する際は、必ず声かけをして本人の了解を得てから入室するようにしている。また、記録ファイルは個人名でなく部屋番号で表示しており、プライバシーの確保や個人情報の取り扱いには十分注意している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>起床、食事、外出、入浴、就寝などを利用者一人ひとりの状態や思いに沿って、体調やペースに合わせ対応している。また、利用者の状態やスタイルに応じてケアの必要度を判断し、職員の配置や勤務時間を考慮して、その人らしく生活できるように支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者と一緒に考えたり、買い物に行き選んだ食材を取り入れている。積極的に調理に参加する利用者もあり、盛り付け、配膳など利用者それぞれが出来る範囲で手伝っている。職員も一緒にテーブルを囲み、食べ終わってもそのまま会話を楽しんでいるので、食べ方が遅い利用者も気にせずゆっくりと食事を楽しむことができる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴ができ、時間帯も本人の希望に応じ対応している。温泉地が隣接して、地元住民は無料で入浴できるので、頻りに温泉に行き職員と一緒に入浴を楽しんでいる。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援(認知症対応型共同生活介護事業所のみ記入)					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	お願いしますの声を聞いた利用者は、当たり前のように主体的に配膳や茶碗拭きなどを行っている。自分のできることが役割となり、それが張り合いになっている。読書、音楽鑑賞、ドライブ、外食、花見など利用者が楽しめる行事、趣味の工夫や自然に囲まれた環境を活かし、戸外での食事、お茶のみをして気晴らしを行っている。		
25	61	日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	自然に囲まれているので、天気の良い日は散歩に出かけたり、庭で日向ぼっこをして戸外で過ごす時間を大切にしている。冬期間は雪が多く外に出る機会が少ないが、ビデオ体操で体を動かしている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	基本的に、日中は玄関の鍵はかけない。日常生活の中で、利用者の状態把握を心がけ、外出しそうな気配を見落とさないよう見守りを行っている。		利用者の顔を覚えてもらうなど、地域での見守り体制を広め、安心、安全につなげていくためにも、今後より一層地域の人々との交流を広げていって欲しい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	日中を想定した避難訓練を行う予定。訓練内容は避難場所の確認と連絡網の確認を行い、消防署の指導を受ける。また、地域の協力が得られるように、お茶のみに誘ったり、お茶のみに行ってグループホームについて知ってもらうよう働きかけている。		夜間を想定した訓練も含めて、定期的に避難訓練を実施してほしい。
あり					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期的に外部の栄養士に献立表のチェックをしてもらっている。摂取量、摂取状態はチェック表に記録している。口から食べることを一番大切に考えているので、食欲が出るように本人の嗜好を考慮しながら食事の支援をしている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは南に面しており、窓も大きいので部屋全体が明るく、天気の良い日は日がさして暖かい。椅子とコタツがあるので、利用者は好きな場所でくつろいでいる。台所と居間が向かい合っているので、職員は作業しながら利用者と顔を合わせ会話ができ、料理の匂いや食器の音などで生活感がある。また、窓から見える木々や鳥の鳴き声などで季節を感じることができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりが、長く使っていたソファや椅子、毎日手を合わせている仏壇などを持ち込み思い思いの部屋になっている。安心して居心地よく過ごせるように配慮している。		

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム猪苗代

記入担当者名 熊谷 玲子

評価結果に対する事業所の意見

特になし

**評価結果に対する「事業所の意見」の記入について**

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。